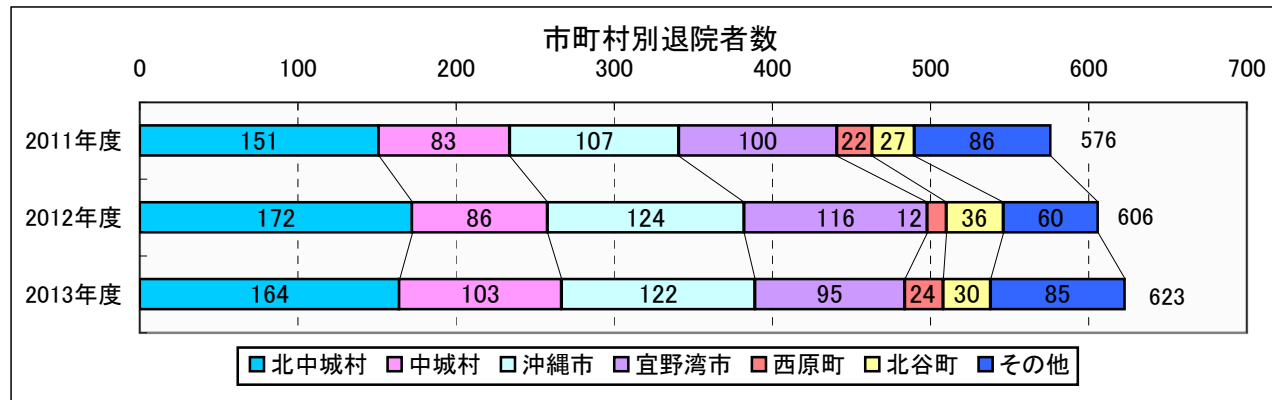
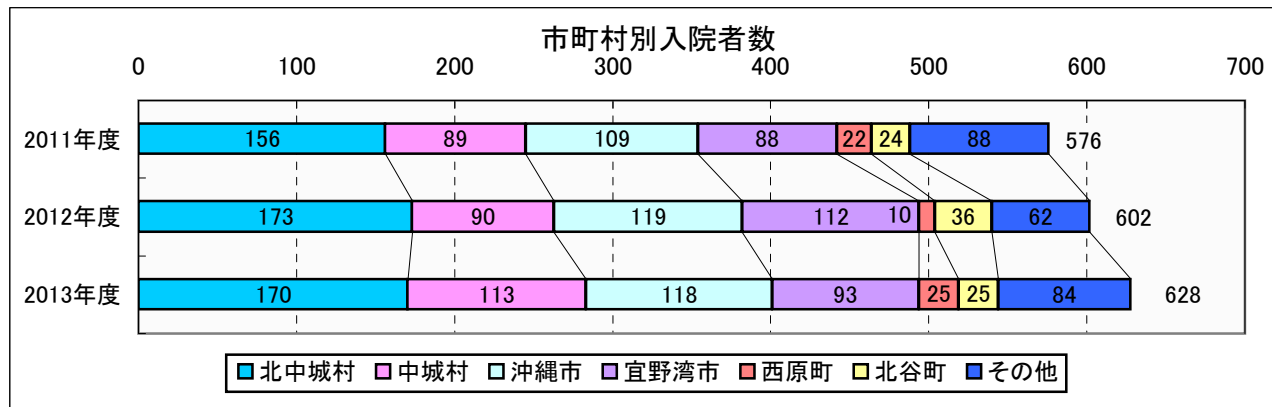
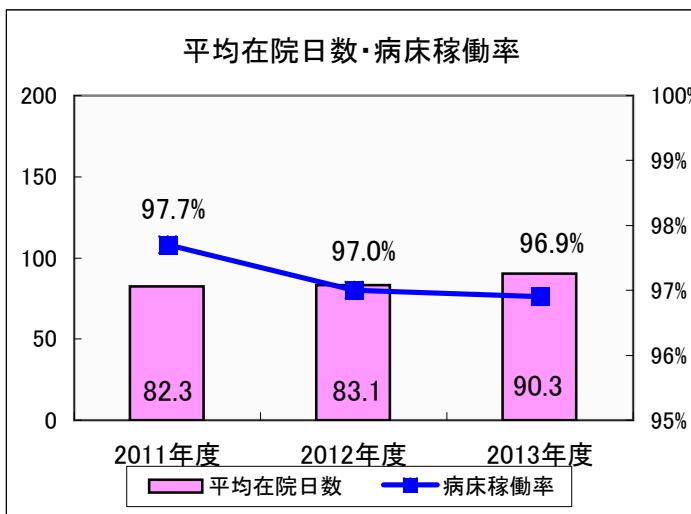
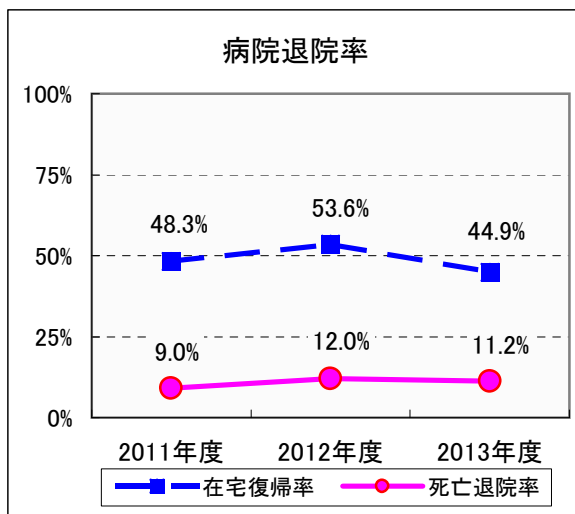
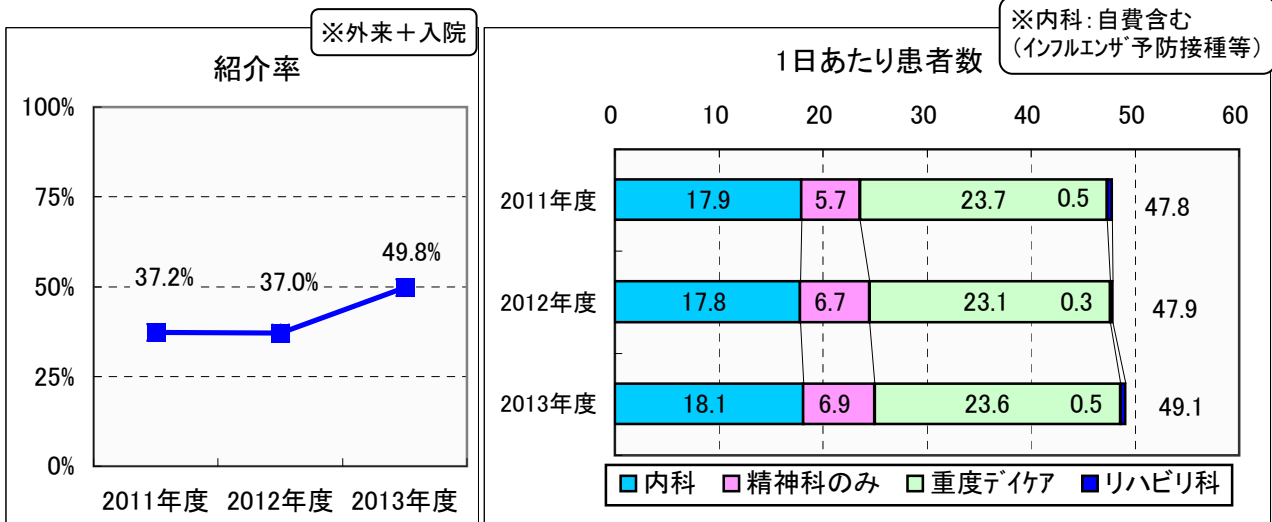


# 北中城 若松病院 2011年度—2013年度実績



# 北中城若松病院 2011年度—2013年度実績

前ページ表5・表6にあるように、入退院数は増加しているが、表7 病棟全体の稼働率は低下している。  
 表8 退院患者の平均の入院日数\*をみると、日数が短くなっている事がわかる。  
 (\*退院患者の入院日数の平均値。前ページ表4の平均在院日数は患者の「入」「出」から算出した数値)

表7 病棟別稼働率

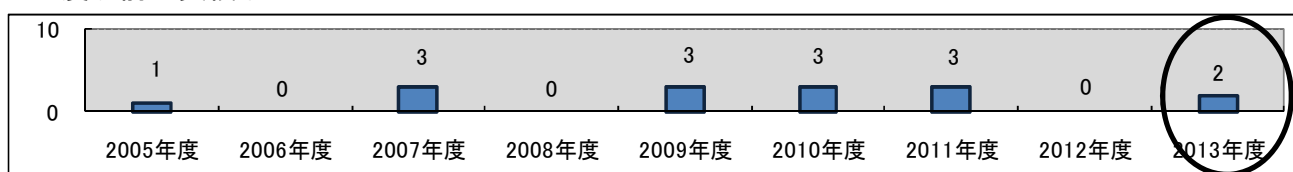
		2011年度	2012年度	2013年度
一般病棟	第1病棟	92.1%	85.2%	86.5%
介護認知症疾患療養病棟	第2病棟	98.3%	98.3%	96.2%
特殊疾患病棟1	第3病棟	100.0%	100.0%	100.0%
特殊疾患病棟2	第5病棟	99.9%	99.9%	99.9%
回復期リハビリテーション病棟	第6病棟	93.8%	94.3%	95.7%
病院全体		97.7%	97.0%	96.9%

表8 平均入院日数(\*退院患者の入院日数)

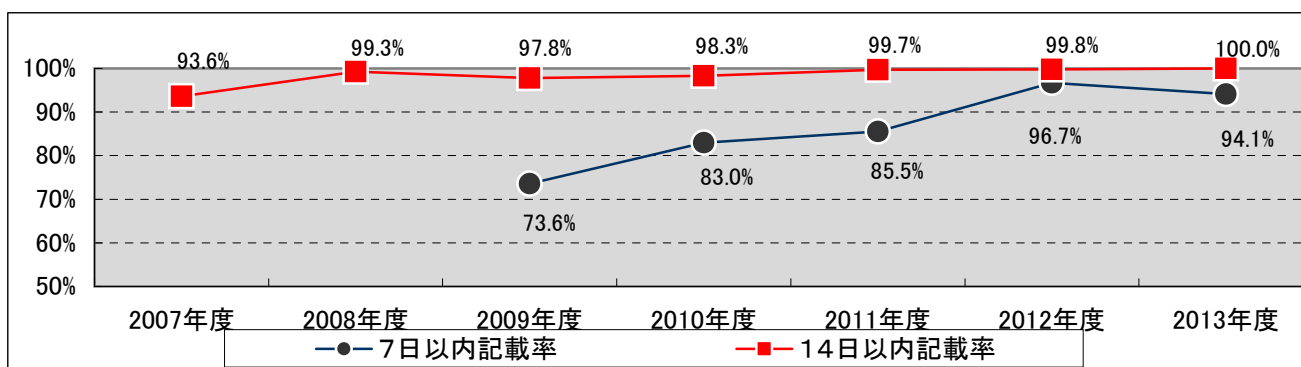
		2011年度	2012年度	2013年度
一般病棟	第1病棟	44.8	29.9	22.2
介護認知症疾患療養病棟	第2病棟	206.9	300.7	288.6
特殊疾患病棟1	第3病棟	787.0	1178.7	728.8
特殊疾患病棟2	第5病棟	481.7	539.6	369.0
回復期リハビリテーション病棟	第6病棟	77.4	75.7	74.8
病院全体		133.8	150.2	119.2

## 北中城若松病院 診療記録等の開示(カルテ開示)2013年度実績

2004年度以前は実績なし



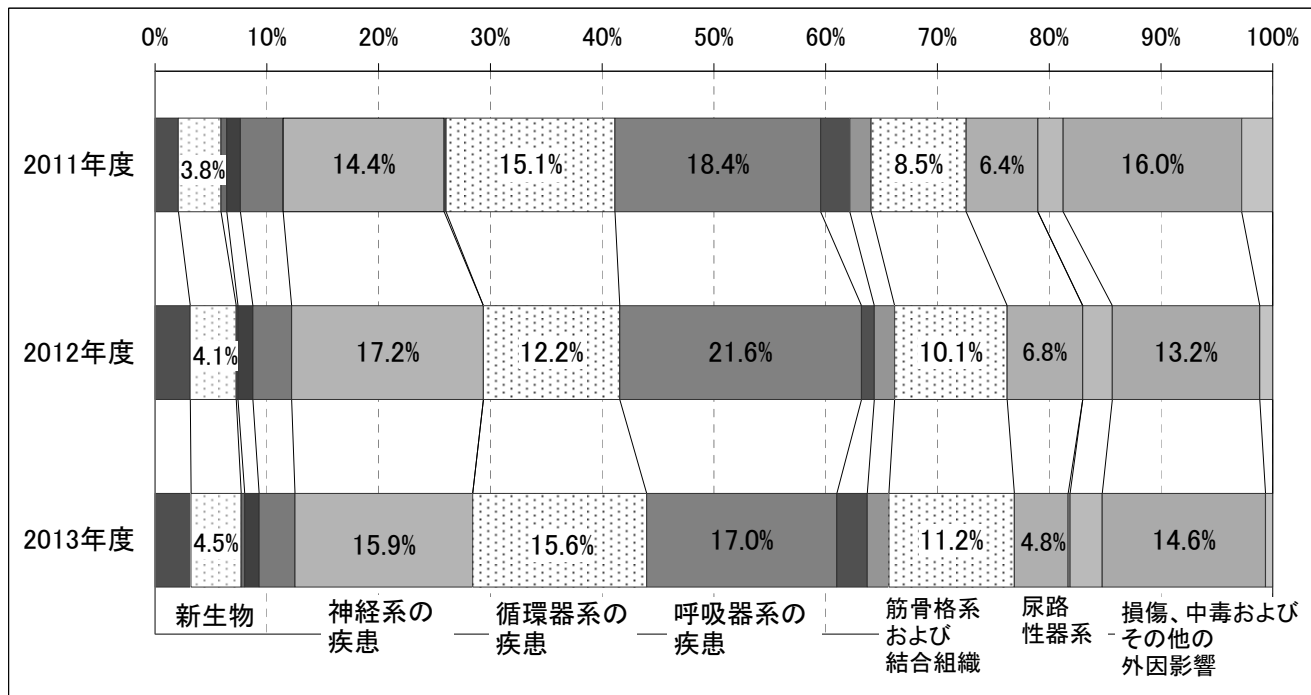
## 北中城若松病院 医師の退院時要約(サマリー)2013年度実績



# 退院患者の主病名疾病大分類 2011年度—2013年度

下記に退院患者の主病名分類を表した。

2012・2013年度に1番多い疾患が「廃用症候群」であり（2011年度は2番目に多い）分類上でも廃用症候群が含まれる「筋骨格系及び結合組織の疾患」が増えている。これは6病棟の稼働率が上がった事も影響していると考えられる。



退院数に対するの疾病割合(左から順に表示)	2011年度	2012年度	2013年度
感染症および寄生虫症(A00-B99)	2.1%	3.1%	3.2%
新生物(C00-D48)	3.8%	4.1%	4.5%
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	0.5%	0.2%	0.3%
内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E99)	1.2%	1.3%	1.3%
精神および行動の障害(F00-F99)	3.8%	3.5%	3.2%
神経系の疾患(G00-G99)	14.4%	17.2%	15.9%
耳および乳突突起の疾患(H60-H95)	0.2%	0	0
循環器系の疾患(I00-I99)	15.1%	12.2%	15.6%
呼吸器系の疾患(J00-J99)	18.4%	21.6%	17.0%
消化器系の疾患(K00-K93)	2.6%	1.2%	2.7%
皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	1.9%	1.8%	1.9%
筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	8.5%	10.1%	11.2%
尿路性器系の疾患(N00-N99)	6.4%	6.8%	4.8%
先天奇形、変形および染色体異常(Q00-Q99)	0	0	0.2%
症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	2.3%	2.6%	2.9%
損傷、中毒およびその他の外因影響(S00-T98)	16.0%	13.2%	14.6%
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	2.8%	1.2%	0.6%
<b>退院数</b>	<b>576</b>	<b>606</b>	<b>623</b>
(退院数のうち死亡数と死亡率)	(9%) 52	(12%) 73	(11.2%) 70